



内陸アジア史の文献と言語

人文科学系・人文社会学領域

矢島 洋一

教授

YAJIMA Yoichi

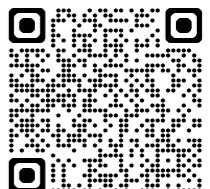
博士(文学)(京都大学)

■研究キーワード 内陸アジア/中央アジア/イスラーム

■主な所属学会 日本オリエント学会/内陸アジア史学会/西南アジア研究会

■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.799a117cf794185c520e17560c007669.html>

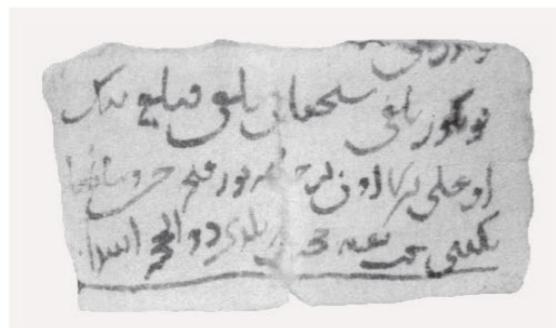


研究者総覧

研究概要

内陸アジアとその周辺地域の歴史を、アラビア語・ペルシア語・テュルク語・ロシア語などの文献史料に基づいて研究しています。文献と、その文献が記された言語から過去を辿る方法論に关心があり、研究対象は右のように多岐にわたります。

2. 세금 영수증(본관4015-3) (도56, 삽도2)



삽도2. 본관4015-3 (적외선 사진)

20世紀初頭に日本の探検隊が中央アジアで発見し、現在は韓国に所蔵されるアラビア文字テュルク語文書の解読



モンゴルに残る14世紀のペルシア語碑文

研究のプロセス・研究事例

これまで主に以下のテーマで研究を進めてきました。

1. モンゴル帝国史

13~14世紀にユーラシアの広範な地域を支配したモンゴル帝国の歴史を、イスラーム研究の立場から解明することを目指しています。特に力を入れているのが史料研究で、ペルシア語・テュルク語などで書かれた文書や碑文の解読を行っています。

2. イスラーム神秘主義教団史

中央アジアやイランにおいてイスラーム神秘主義者たちが形成した教団の歴史、特にその組織形態の変遷について考えています。また、アラビア語・ペルシア語・テュルク語などの文献に残された彼らの思想についても検討しています。

3. 中央アジア法制史

主にロシア統治期（19世紀~20世紀初頭）の中央アジアの法制について、イスラーム法とロシア法との関わりから検討しています。テュルク語・ペルシア語・アラビア語・ロシア語が混在する法廷資料群から当時の社会の様態を明らかにします。

4. イラン文献学

ペルシア語をはじめとするイラン諸語で書かれた文献の性格を検討しています。他言語資料との関係や、イスラーム以前と以後とを結ぶ要素に关心があります。

5. 日本・中東関係史

古代から近現代にいたるまでの日本と中東地域とのつながりの痕跡を追い求めています。